

富山県魚津市

東山円筒分水槽



田を潤す農業用水を均等に、かつ公平に分水することは実は至難の業だ。水路の形状、流れる水の量、水勢によって刻一刻と変化する。その不公平を正すために開発されたのが円筒分水槽だ。竣工から70余年を経ていまだ現役の「日本一美しい」農業土木のレガシーを訪ねた。



貝田新円筒分水槽

夏の日差しを浴びて育った稲が田んぼ一面に広がり、輝くような緑が目にも美しい。その稲波の風に乗って瀑声のような豪快な水音が聞こえてくる。巨大なコンクリート製の円筒堰から絶え間なく水が湧出し、越流した水が円筒外縁部の三つの水路を辿って一帯の田地に導かれていく。富山県魚津市の東山円筒分水槽。片貝川流域から供給される農業用水を公平に分配するために設けられた利水施設である。

海岸線までの標高差約2,400mを流下する片貝川の急流と、地下に浸透しやすい河床とが相まって古くから深刻な水不足に悩まされてきた。夏季にはたびたび農民同士の水争いが起きた。まさに我田引水。地域では、日々の生活にかかわる水をめぐって確執が生まれた。水路の見回り役は昼夜を問わず、雨天時には蓑を纏って監視に当たったという。昭和初期、組合によって悲願だった用水事業が起案される。第二次世界大戦に起因する物資不足により中断を余儀なくされたが、用水整備は戦後に再開し、東山円筒分水槽は1954（昭和29）年に完成した。片貝川上流の対岸には貝田新円筒分水槽も設置され、その余水を片貝川の河床の下を横断する2本のヒューム管で東山に導き、高低差を利用した逆サイフォン方式で一帯に再供給する。直径9.12m、高さ2.8mの円筒型の構造物から湧き出る水は最大毎秒2.05m³。東山用水、青柳用水、天神野用水に流速や流量に左右されることなく極めて均等に分配される。

東山円筒分水槽はいつしか「日本一美しい円筒分水槽」と称されるようになり、2020年には国の登録有形文化財に登録された。周辺にはポケットパークや駐車スペースも設けられている。時折、車やバイクで訪れる人の姿があった。静かな田園風景の中に佇む分水槽の姿と、滔々と湧き出る水の音が、束の間の癒やしを与えてくれる。



富山県内には5基の円筒分水槽があるが、そのどれもが個性的な存在感を放っている。南砺市の赤祖父円筒分水槽も国の登録有形文化財に登録されている。農業土木の一端を現役に担っている貴重な土木遺産だ。